

永井先生からのメッセージ No.2

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

2022年 9月16日(金) 野毛山幼稚園

元小学校教諭 永井 裕

【10歳(じっさい)】

- ▶保護者の方々の中には、小学校4年生の時、『10歳を祝う会』や『1/2成人式』といった行事を体験された方もいらっしゃるのでは。ところが、この行事、今や大半の小学校で行われておりません。「行事を精選し授業時間を確保する」。そんな学校側の判断に異論はありません。

ただし『10歳』には、世の中がどう変わろうとも、決して忘れてはいけないことがあるのです。



- ▶野毛山動物園の動物たち。その多くが、来る日も来る日も、同じ檻の中で過ごしています。でもなぜノイローゼにならないのでしょうか。それは、動物たちの脳には『時の流れ』を感じ取るという働きがないからだそうです。ですから「ずっとここにいるよね」「これからも同じなのかな?」といった意識など全くなく、その日あるのみ。これを『精神的その日暮らし』と言うのだそうです。

そして、この『精神的その日暮らし』状態は、
人間の乳幼児期も、ほぼ同じなのだそうです。
(3歳頃まで)

★あんなに叱ったのに、もうケロっとしている。
★「毎日毎日こうしなさいって言ってるよね」



- ▶しかし日々刻々、様々な活動や体験を繰り返しながら、子どもたちの脳は、少しずつ少しずつ『時の流れ』を感じ取る能力を身に着けていきます。そして、ついに10歳を迎える頃になると、「過去 ⇄ 現在 ⇄ 未来」という流れを十分に体得できるようになるというのです。

だからこそ、10歳の誕生日には、親は口に出さずとも、次のことを心から祝福すべきなのです。

- ♥「我が子が、これまでの10年間を、感謝とともに『ふり返る』ことができるようになってきた」
- ♥「我が子が、これからの10年間を、期待とともに『見ずえる』ことができるようになってきた」

- ▶長らく園に通い、捨てるに忍びない『思い出の品』が増えてくると、こんな疑問も生じてきます。
(とりあえずとっておく……のはいいけれど、いつ、どこで、何の役に立つのだろう?)
※我が家(筆者)の場合、佃煮状態の衣装ケースが数段放置されたままに終わりました。

「この箱はねえ、〇〇が10歳になった日に開けるように、準備しておいたものなんだよ。」
「えーっ。何が入ってるの。」「あ、これ〇〇先生の字だ」「これ覚えてる」「この折り紙は……」。

親のこうした真心あってこそ、子どもの心の中に、感謝の思いとか、未来への期待というものが、自然とふくれ上がってくるものなのかもしれません。
あと数年で訪れる『10歳のお誕生日』。特別なことをする必要はないとは思いますが、特別な思いで祝ってあげてほしいと願っております。

